

## 4 京都国際マンガミュージアムの国立メディア芸術総合センター（仮称）との連携について

（文化庁）

京都市では、平成18年11月に、京都精華大学との共同事業により、マンガ資料を収集・保存し、研究、博物館・図書館、生涯学習、新産業創出、人材育成等の諸機能を有する我が国初の「マンガ」文化を世界に発信する総合拠点施設「京都国際マンガミュージアム」を開設しました。現在、マンガ関連収蔵資料は世界最多の30万点を誇り、入館者数は開館2年間で延べ50万人を突破したところです。

国におかれては、マンガ・アニメーションを中心とするメディア芸術全般の発信拠点として、新たに「国立メディア芸術総合センター」（仮称）を設立される計画ですが、既に日本のマンガ文化の総合拠点として海外でも認められている「京都国際マンガミュージアム」と緊密な連携を図る体制を構築することで、海外から高い評価を受けているマンガ文化の一層の活性化を、国家戦略としてより強力に展開することができるものと考えております。

そこで、次のとおり要望します。

### 要望事項

- 1 京都国際マンガミュージアムを国立メディア芸術総合センター（仮称）マンガ部門の専門施設に位置付けることによる緊密な連携体制の構築
- 2 同センターの専門施設として、京都国際マンガミュージアムの海外への展開・情報発信力や人材育成等における機能充実・強化とその支えとなる財政措置

主な要望先：文化庁（文化庁芸術文化課）

京都市の担当課：教育委員会事務局 総務部 総務課長 稲田新吾 TEL 075-222-3768

産業観光局 産業振興室 新産業支援企画課長 森永真世 TEL 075-222-3755

# 京都国際マンガミュージアムの国立メディア芸術総合センター(仮称)との連携について

## 京都国際マンガミュージアム開設の背景

日本マンガの  
文化的価値  
散逸するマンガを資料として  
収集・保存をする必要性

**増大**

### 文科省・文化庁

必要性は認めつつも、国立のマンガ文化の総合拠点の設立に至らず。

当時の河合隼雄文化庁長官の「関西から文化で日本を盛り上げよう」との熱い思いを受け、京都にマンガ文化の国際的な拠点施設を設けることに対し、文部科学省・文化庁からも「本来国がやるべき事業をやってくれるのであれば」として全面的な協力。

京都市が  
土地と建物を提供



京都精華大学が  
収集資料や  
研究機能を提供

京都市・京都精華大学の共同事業  
**京都国際マンガミュージアム開館**  
(平成18年11月)



マンガ資料を収集・保存し、研究、博物館・図書館、生涯学習、新産業創出、人材育成等の諸機能を有する我が国初の総合拠点施設として、国内外へマンガ文化の情報発信、海外の研究機関とも交流。日本のマンガ文化の代表機関として認知されつつある。

### ■資料数:世界最多の30万点

現代の国内マンガ本を中心に、明治期以降のマンガ関連歴史資料、世界各国の著名マンガ本、雑誌、アニメーション関連資料等を収集。

### ■入館者数:年間28万人 (H20年度)

うち1割強が外国人入館者

### ■第9回国際マンガサミット京都大会開催(H20年度)

世界のマンガ家・関係者が集結し、マンガ文化を発信

## 国立メディア芸術総合センター(仮称)の設立

マンガ部門

アニメ部門

映画部門

ゲーム部門

メディアアート  
部門

「国立メディア芸術総合センター(仮称)」のマンガ部門の機能を包含する存在として、既に国内外の研究機関等と連携・情報発信等を行っている「京都国際マンガミュージアム」との機能の重複を避け、マンガミュージアムを同センターのマンガ部門専門施設に位置づけていただき、緊密な連携・協力と機能充実・強化を図ることで、マンガ文化の一層の振興を国家戦略として展開していただきたい。

※ 映画部門は、東京国立近代美術館の一部門・フィルムセンターが拠点として、国立メディア芸術総合センター(仮称)の業務との重複を避けつつ、必要な役割を担い、緊密な連携・協力を図ることとなっている。